

## 「大雨や猛暑日等のこれまでの変化」のページを拡充しました ～ 気候変動に伴い大雨の発生頻度が増加 ～

気象庁ホームページにおいて、「大雨や猛暑日等のこれまでの変化」に2022年のデータを追加し、極端な大雨のこれまでの変化についての掲載データを拡充しました。気候変動に伴い、1980年頃と比較して、最近の10年間はおおむね2倍程度に大雨の発生頻度が増加しています。

気象庁では大雨などの極端な気象現象の変化傾向を監視しています。今般、「大雨や猛暑日等(極端現象)のこれまでの変化」のページ(別紙)に2022年のデータを追加するとともに、大雨による影響を多角的に分析できるよう、1時間降水量、日降水量に加えて、3時間降水量を追加しました。

気候変動に伴い、大雨の年間発生回数は増加しており、より強度の強い雨ほど頻度の増加率が大きく、1時間80ミリ以上、3時間150ミリ以上、日降水量300ミリ以上といった大雨では、1980年頃と比較して、最近の10年間はおおむね2倍程度に頻度が増加しています。<sup>1</sup>

大雨の発生頻度が増加することにより気象災害のリスクが高まります。様々な分野において、気候変動の影響の評価や適応策等を検討する場合の基盤的な情報のひとつとしてご活用ください。

### ○ 気象庁ホームページ「大雨や猛暑日など(極端現象)のこれまでの変化」

[https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme\\_p.html](https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html)

#### 【問合せ先】

大気海洋部 気候情報課 担当 平井、田巻  
電話 03-6758-3900(内線 4542)

<sup>1</sup> 1980年頃と比較して、約1.8倍～約2.1倍(※)に頻度が増加している。  
(※ ただし、数値は統計手法や期間等で変わりうることに留意。1時間降水量80ミリ以上、3時間降水量150ミリ以上、日降水量300ミリ以上など強度の強い雨。統計期間は1976～2022年。)

## 気象庁 HP「大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化」

大雨 変化 これまで 検索



ホーム > 各種データ・資料 > 地球環境・気候 > 大雨や猛暑日など（極端現象）の長期変化 > 大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化

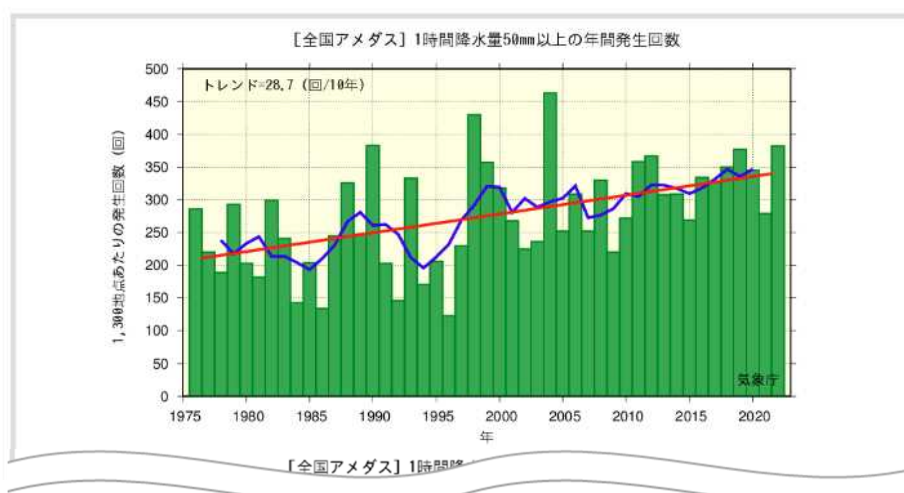
### 大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化

ここでは気象庁の観測データを基に、大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化を示します。

要素： [全国アメダス] 1時間降水量50mm以上、80mm以上、100mm以上の年間発生回数 ▼ 表示

全国（アメダス）の1時間降水量50mm以上、80mm以上、100mm以上の年間発生回数

- 大雨の年間発生回数は有意に増加しており、より強度の強い雨ほど増加率が大きくなっています。
- 1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨は、1980年頃と比較して、おおむね2倍程度に頻度が増加しています。



### 掲載要素

#### ■ 大雨などの発生頻度の変化（全国のアメダスまたは気象官署等）

[全国のアメダス]

- 1時間降水量 50mm 以上、80mm 以上、100mm 以上の年間発生回数
- 3時間降水量 100mm 以上、150mm 以上、200mm 以上の年間発生回数
- 日降水量 200mm 以上、300mm 以上、400mm 以上の年間日数
- 年最大日降水量の基準値との比

[全国の気象官署等 51 地点]

- 日降水量 100mm 以上、200mm 以上の年間回数、日降水量 1.0mm 以上の年間日数

#### ■ 猛暑日などの発生頻度の変化（全国の気象官署等 13 地点）

- 真夏日、猛暑日、冬日、熱帯夜の年間日数

#### ■ 極端な降雪の変化（北・東・西日本 日本海側の気象官署等 30 地点）

- 年最深積雪の基準値との比、日降雪量 20cm 以上、50cm 以上の年間日数